

平成30年度 第1回 函館市地域支え合い推進協議体会議 会議概要

■ 日 時

平成30年7月25日（水） 18時30分～20時10分

■ 場 所

函館市役所8階 第1会議室

■ 議 事

報告

- (1) 平成29年度第1層生活支援コーディネーターの活動状況について
- (2) 平成29年度第2層協議体の状況について

議事

- (1) 平成29年度くらしのサポーターの登録状況および平成30年度くらしのサポーター養成研修について
- (2) 第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーターの連携について

その他

■ 配付資料

- ・資 料 1 平成29年度第1層生活支援コーディネーターの活動状況について
- ・資 料 2 平成29年度第2層協議体の状況について
- ・資料2参考資料1 平成29年度下半期の第2層協議体の状況について
- ・資料2参考資料2 平成29年度第2層協議体の開催状況
- ・資 料 3 平成29年度くらしのサポーターの登録状況および平成30年度くらしのサポーター養成研修について
- ・資料3参考資料 くらしのサポーターフォローアップ研修開催要項（H28・H29）
- ・資 料 4 第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーターの連携について

■ 出席委員（10名）

池田委員，佐々木委員，所委員，林（珠）委員，川口委員，酒井委員，木村委員，能川委員，林（優）委員，丸藤委員

■ 欠席委員（1名）

阿知波委員

■ 報道機関（2名）

北海道新聞，函館新聞

■ 市職員（事務局）

地域包括ケア推進課 小棚木課長，相澤主査，二木主査，古口主任技師，
田畑主任主事，関主任主事
高 齢 福 祉 課 佐藤課長，笹原主査

■ 会議要旨

古口主任技師

平成30年3月末で委員の任期が満了となり、新たな委員を各関係団体から推薦いただいたので、各委員から会長・副会長の選出を行いたい。会長が選出されるまでの間、事務局の進行により会議を進めさせていただく。

会長・副会長の選出について、「函館市地域支え合い推進協議体設置要綱」第6条第1項に委員の互選により定めると規定しているがいかがか。

丸藤委員

事務局一任でいかがか。

古口主任技師

事務局一任でよいか。

(各委員から異議無しの声)

古口主任技師

それでは事務局案を示させていただきたい。事務局としては、池田委員に会長をお願いしたいと考えているがいかがか。

(各委員から異議無しの声)

古口主任技師

異議無しの声があったので、会長は池田委員に決定する。副会長は、「函館市地域支え合い推進協議体設置要綱」第6条第3項に、会長が指名すると規定しているので池田会長、指名をお願いしたい。

池田会長

前回に引き続き、酒井委員に副会長をお願いしたいがいかがか。

酒井委員

引き受けたいと思う。

古口主任技師

それでは副会長は酒井委員に決定する。一言ずつご挨拶をお願いしたい。

池田会長

前回に引き続き、会長職を賜った。前回同様皆さんからいろいろな意見をいただきながら会議を進めていきたい。皆さんから発言をいただきたいので、意見が無い場合は私から指名して発言をお願いしたいと思うので、協力をお願いします。

酒井副会長

ご指名にあずかり、前回に引き続き、副会長をさせていただく。ヘルパーとしての立場で、在宅を支えていくような意見を発信できればと思う。

古口主任技師

これより会議を進めていくが、ここからは、池田会長に進行をお願いしたい。

池田会長

了解した。それでは報告（１）「平成２９年度第１層生活支援コーディネーターの活動状況について」市から説明願いたい。

田畑主任主事

第１層生活支援コーディネーターの活動状況については、丸藤委員からの資料を元に作成しているので、丸藤委員に説明をお願いしたい。

丸藤委員

(資料１「平成２９年度第１層生活支援コーディネーターの活動状況について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 市内の町会、在宅福祉委員会等の関係者とのネットワーク構築や、旭川市や釧路市等市外で開催された研修会・勉強会に参加し、関係者とのネットワーク構築を行った。
- ・ 介護・福祉分野以外への助け合いの必要性や社会参加と介護予防についての普及啓発については、函館大学の社会人対象の講義で講演を行った。
- ・ 自分は生活支援コーディネーター以外の立場でも講演等を行う機会があるが、その際テーマに直接関係がない場合でも、講演の中で助け合いの必要性等について触れるようにしている。
- ・ 生活支援体制整備事業実務担当者研修会兼情報交換会を通して、自治体を越えたネットワークの構築を行った。
- ・ 地域包括支援センターが開催した、第２層協議体に参加し、センター職員とともに、生活支援コーディネーターの役割の説明や、グループワークを行い、生活支援体制整備事業への理解を深めた。
- ・ 近隣に限らない町会役員同士の意見交換や勉強会などを実施し、地域を越えた町会同士の交流や地域活動の強化に結び付ける取組を今後検討したい。

池田会長

旭川市、釧路市などいろいろなところに訪問しているが、各都市いろいろな悩みを抱えている中で、特色的な取組はあったか。

丸藤委員

島根県雲南市が、突出して凄かった。ここは小規模多機能都市の最先端で、地域の課題を住民が考え、自分達で解決しようとする姿勢が根付いていた。あのよう地域の人々が自主的に活動し、課題を解決していくような姿勢には、ただただ驚くばかりである。

池田会長

具体的にはどのような活動を行っていたか。

丸藤委員

例えば、雲南市では、地域ごとに独自の介護予防の体操を作っており、その体操の発

表会がある。お互いの体操の自慢大会となり、「他地域よりもよい内容の体操にしよう」、
「他地域よりも参加者を増やそう」とするため、翌年の発表会では、改善した体操を披露することから、
どんどんよい体操が普及していくことになる。

また、毎週のように地域でやっている円卓会議で、引きこもりの高齢者が中々外に出てこないケースで、
どうすれば表に出てきてくれるかを考えた。その会議には中学生も参加していたが、その中学生が引きこもりの高齢者に手紙を書いてみると発案した。

「今度地域で健康診断があり、自分も受付で参加しているので、待っている」と記載した直筆の手紙を出したところ、大人や市役所職員が外に出てみないかと声をかけても出てくることはなかったが、さすがに「中学生が受付で待っている」との直筆の手紙には心が動いたようで、
健康診断に参加し、必要な検診を受けることとなった。生活支援体制整備事業が始まる遙か前からこのようなまちづくりを行っていたという経緯はあるが、このような凄いまちもある。

池田会長

ここまで到達するまでにどのようなことを行っていたのか。函館市はちょうどこのようになる前の段階にあると思う。

丸藤委員

そこに到達するまでにはいくつかのプロセスがあり、テキストにもなっているが、実際にやるとなると難しい。雲南市にはとても行動力のある「スーパー公務員」と言われている市の職員がおり、その市の職員は火のないところには煙は立たないというが、わざと煙を出させて消火しに行き、火元を消し続けることで、うまくいくと言っていた。いずれ函館にお招きして講演してほしいと思っている。

池田会長

函館がそのようになるにはどうすればよいか。函館は町会単位で動いているが、町会間の連携は弱いと思う。課題があっても自分の町内会だけの課題と認識している。そこでいろいろな町会が集まってきて、第2層協議体に課題を投げかけられるとよいと思うがいかがか。

丸藤委員

このようなやり方を小規模多機能自治とって、I I H O Eの川北氏が提唱している。西日本ではこの考えを取り入れている自治体が増えてきた。まちづくりセンターでは小規模多機能自治の研修会を実施したが、市主催では実施していなかった。そこで次の年に市による小規模多機能自治の研修実施の提案を行ったが、違う話を聞きたいと言われてしまった。

大きな規模の市では長崎市が小規模多機能自治を導入しており、全職員を対象に研修を実施している。その際、朝・昼・夕のローテーションで1週間をかけて研修を行うが、必ず長崎市長が冒頭で挨拶し、小規模多機能自治の導入の必要性について話す。

このように小規模多機能自治を実施するとなると、保健福祉部だけではなく、市全体で実施しなければならない。

川口委員

函館市では旧4町村は合併して函館市になったが、旧4町村地区は、互いに連携しようとしなない。人口減で地域が消滅しようとしている中、北海道と本州ではその危機意識が違うと思う。この危機意識の違いが高齢者福祉にも出てきていると思う。

丸藤委員

北海道的なおおらかさかもしれないし、フロンティア精神・開拓者魂なのかもしれないが、危機意識という面で見ると足りないと思う。山崎亮さんという方がコミュニティーデザインの関係で函館に来た際、親しくさせていただいたので、「函館は中々動かない」と相談した際、「それはまだ危機的状況ではないからだ。本当に危機的状況であれば、ほっといても動くことになる」と返答された。よって危機意識はまだないのかなと思う。

池田会長

函館市の高齢化はどんどん進んでいる。今動いておかないと、さらに高齢化率が進んだ際に何もできなくなってしまう。だから今第1層協議体と、第2層協議体のメンバーを中心に動いていこうとしている。丸藤委員、リーダーとしてどのような方向に進めていきたいか。

丸藤委員

私が船頭となり舵を取るよりは、まずは10の圏域の中で、それぞれの地域に住んでいる人が、自主的に地域を良くするという意識を持っていることが根源にあるまちにしたいと思う。

池田会長

そのためには町内会にある程度リーダーが必要だと思うので、育てていかなければならないと思う。

丸藤委員

「4 その他」の部分に繋がっていくが、リーダーを育てていく際、ここの部分が足りないからリーダーができない、こういう雑用に追われていてリーダーができないなどの困りごとに対し、ボランティアによる支援体制の構築を行い、共通の悩みを解決し、リーダーがリーダーとして動きやすくするためのサポートを行えばよいと思う。

池田会長

そのような答えを期待して質問した。地域の中でそのようなことを意識づけていくことが大切になる。そこが土台となっていく。他に質問はあるか。

佐々木委員

あとで話はあるかもしれないが、活動状況を見ていると、第2層生活支援コーディネーターが地域包括支援センターに配置され、町会などいろいろなところで活躍しているのが分かるが、今後第2層生活支援コーディネーターに期待することはあるか。

丸藤委員

10圏域の中のある1つの圏域の、さらに個々の町会で熱心なところとそうではないところで意識の差がある。その理由はいろいろあると思うが、最終的にはリーダーシップがある人の存在や、活動しやすい環境を作ってくれている人がいるところは、動きやすいと思う。

逆に町会の役員だけでなんとかしようとするところは、動きが鈍く悪循環に陥り、全部を自分達だけで押し付け合う状況になり、動かなくなってしまう。

自分たちは「動く」主体ではなく、動きやすい場を作るため、どんな人に来てもらえるとよいか考えられるようになれば、比較的アイデアがたくさん出てくるのではないかと思う。地域ケア会議を開催する場合も、いろいろな人に集まってもらいたいと考えているところは活発になっているようなイメージがある。

川口委員

いろいろな話を聞いて、地域が活性化していかない状況の原因は社会教育にあるような気がする。教育とは、「健全な人間と健全な地域社会を作る」とそこに尽きると思う。私も道内いろいろな地域に出向いたが、元気だなど思う自治体は、教育委員会に40程度のサークルがある。そのくらいあれば、そのまちは元気だと思う。住民の質を均等に上げていかなければ、現状格差がありすぎるため、うまくいかないと思う。

丸藤委員

私の場合函館市の社会教育委員長を何期か務めたが、例えばコミュニティースクールをやっている方が、社会教育に関わってくるようにしなければならぬと思うし、町会についても、もっといろいろな多様な人材が入ってきていいと思う。いろいろな角度から議論していくことが必要であると思う。ばらばらにやっても、いつかは連携してくると思う。

池田会長

どちらにしても作っていかなければならないので、丸藤委員を中心に作ってほしい。

丸藤委員

今が最初なので、動きが出にくいと思うが、動き出すようになってくれば、雲南市のようになると思う。

池田会長

他に委員から何かあるか。

(各委員から特に無し)

特に無いようなので、次に報告(2)「平成29年度第2層協議体の状況について」市から説明願いたい。

二木主査

(資料2「平成29年度第2層協議体の状況について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 第2層協議体の主催は函館市では地域包括支援センターである。主な開催場所は町会館、小学校や大学などの学校で、所要時間は1時間半から2時間程度、主な参加者は地域住民、民生委員、町会役員、在宅福祉委員、ケアマネジャー、介護保険事業所などである。
- ・ 開催状況をまとめると、参加者の約半分は地域の方々で、内訳は町会役員の方が多く参加している。また、多世代を巻き込んだ取組も増えてきている状況である。
- ・ 第2層協議体で取り上げられているテーマは多岐に渡っており、抽出された課題も様々であった。認知症高齢者の増加などの高齢者の傾向、地域住民へのサービスや制度の理解不足、地域住民同士の関係希薄による地域の互助力の低下、地域福祉の担い手不足などである。

- ・ 現状の第2層協議体の傾向としては、なかなか解決策の検討に進まないことである。

池田会長

事務局から説明のあった件について、林委員、包括支援センターとして第2層協議体の運営に携わっていかがか。

林（珠）委員

函館市内10カ所の包括支援センターがあって、それぞれ地域の実情に応じて、地域ケア会議を介して地域づくりを実施している。包括よろこびは北部圏域の担当なので、北部のことについて話したいと思う。

今回資料に掲載している桔梗町会での地域ケア会議は、桔梗全部を対象とした3町会合同のものとなっている。桔梗町会が一番中心となっているが、地域ケア会議を年間の定例行事に取り入れて開催している。平成29年度は「地区にあるもの、あったらいいな」をテーマに話し合い、平成30年度は丸藤委員にも協力いただきながら、桔梗西部町会で少し小さめの地域ケア会議を開催する計画を立てている。地域ケア会議を通して地域で核となってくれそうな人が出てきたので、それが成果になっていると思う。

北浜町会も2回ほど地域ケア会議を実施しているが、ここも地域で核になってくれそうな人が出ている。1回目は町会と町会が連携を取りやすい在宅福祉委員や老人クラブに参加いただいた。2回目はもう少し連携の輪を広げたいということで、北浜町の地域の特徴を生かし、北浜町会の近隣の介護保険関係の施設に声をかけ地域ケア会議を実施した。平成30年度は小学校も交えた形で、文化展のような形で開催したいとの要望があるので、丸藤委員に協力をお願いし、もう少し大きな規模で地域ケア会議を開催して、次のステップに繋げていきたいと思う。先ほども話に出ていたが、町会だけで何かをやるのは難しい時代になっている。町会の人達へ、皆で繋がって何かやっつけようという際の、火付け役を包括が担うことになると思う。

池田会長

リーダーの担い手も出てきて、先ほどの話からだいぶ進んでいると思う。
丸藤委員参加してみてもう良かったか。

丸藤委員

実際動いている地域の中で、包括神山のケースでは、多世代の交流について検討し、地域の高齢者の方と子供が交流する七夕が一つのポイントになるとの意見が出た。会議には地域の人や学校の先生も参加していたので、七夕のアイデアが出た際には、すぐに賛同いただき、今年度の七夕から多世代の交流に挑戦している。

包括あさひのケースでは町会とグループホームの連携について検討し、この時のワークショップで出たアイデアから、お互いに交流するなど、まだまだ大きな動きにはなっていないが、着実に進んでいると感じた。

また、包括たかおかのケースではサロンを作ってみよう話し合った。サロンを作るのは難しくないを知ってもらったことも一つだが、個人的に一番の収穫だったことは、自分がサロンへ参加する側と考えた場合は、サロンへの参加費は無料の方がよいと考える意見が出るのに対し、自分が運営者側として考えた場合は、参加費を徴収するという意見が出ていた。両方の立場で考えることで、参加費のとらえ方が変わり、運営側の気持ちを知ってもらうことができた。

池田会長

今話を聞いて進んできていると感じた。木村委員、民生委員はどのような活動を行っているか。

木村委員

民生委員は港まつりなど、各町会の活動や在宅福祉委員の活動に協力している。

池田会長

第2層協議体の活動にも協力をお願いしたい。ぜひ輪を広げていければと思う。

他に委員から何かあるか。

(各委員から特に無し)

特に無いようなので、次に議事(1)「平成29年度くらしのサポーターの登録状況および平成30年度くらしのサポーター養成研修について」市から説明願いたい。

田畑主任主事

(資料3「平成29年度くらしのサポーターの登録状況および平成30年度くらしのサポーター養成研修について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・平成29年度はくらしのサポーター養成研修を3回開催し75名が修了、68名の登録となり、平成28年度からのくらしのサポーター登録者は100名を越えた。
- ・登録者について、前年度までは圏域で偏りが見受けられたが、平成29年度は函館アリーナや東部の恵山コミュニティーセンターで開催したことから、偏りを解消することができた。
- ・「包括支援センターたかおか」が担当となる東央第2圏域については、平成28年度・29年度を通しての登録者が1名なので、この偏りを解消するため、平成30年度のくらしのサポーター養成研修の1回目は、函館アリーナで開催した。
- ・平成29年度くらしのサポーターマッチング状況は、函館朝市主催の「おでかけリハビリ」、デイサービス施設、ボランティア団体等で20名の登録者が活動を行った。

池田会長

フォローアップ研修が終わればサロンを開くことができるのか。

丸藤委員

直接は分からないが、既にあるサロンに行って活躍しているサポーターはいる。

池田会長

市としては、今やっている研修の内容に新たな項目を増やすということか。

田畑主任主事

今やっているカリキュラムは、振り返りや1期生・2期生間等の交流がメインとなっている。そうではなく、これからは活躍していける人材を育てていかなければならないので、例えば先ほどの町会の話の中で、リーダー的な役割を担う人が必要となるとあったが、くらしのサポーターでも同じくリーダー的な役割を担う人が必要となるので、そのような人材を育てるためのカリキュラムを盛り込むのも一つではないかと考えている。

丸藤委員

函館でできるか分からないので、あくまで参考であるが、神戸市でもこのようなボランティア人材を育てているが、一人一人と長い時間をかけて、本人の気持ちや希望を聞くような面談を行っている。一対一で面談し、何ができる、何ができないかを具体的に話し合う。そのようなことも必要だと思った。

池田会長

林委員はいかがか。

林（珠）委員

くらしのサポーターを今後どのような形で活用していくのかもカギになってくると思う。例えば、今は養成研修修了生にどんなことができるかを確認し、社会福祉協議会で登録・管理し、マッチングを行っているが、そのスタイルは今後も継続するのか。

サポーターの人がもっと積極的に、マッチングの話がくる前に地域で活動しようとするのであれば、意欲をかき立てるようなカリキュラムとバックアップする仕組みが必要になると思う。

池田会長

地域にはどんどん出て行ってほしいと思う。

丸藤委員

全員は無理だと思うので、待ちの姿勢の方へのマッチングは引き続き行うが、リーダーシップを取れる方は、是非地域にどんどん出て行ってほしいし、そういう方が増えてほしい。

池田会長

市と社会福祉協議会、丸藤委員と相談して、進めてほしい。

それでは次に議事（２）「第１層生活支援コーディネーターと第２層生活支援コーディネーターの連携について」市から説明願いたい。

二木主査

（資料４「第１層生活支援コーディネーターと第２層生活支援コーディネーターの連携について」に基づき説明）

※説明要旨

- ・ ７月に第１層、第２層生活支援コーディネーターの連絡会（仮称）を開催した。
- ・ 第１層生活支援コーディネーターと第２層生活支援コーディネーターのつながり、関わりがあるとよいことは分かるが、どうやったらいいかが分からない、第２層協議体から第１層協議体へ課題を持ち上げて、政策形成につなげるルートが必要ではないか、などが意見として出された。
- ・ 今後の第１層生活支援コーディネーターと第２層生活支援コーディネーターの連携方法を具体化するため、定期的な顔合わせやSNSを使った情報交換などを検討する。

池田会長

林委員、実際包括支援センターとして活動している中で、第２層が把握した地域課題を第１層に上げるためにはどうすればよいか。

林（珠）委員

市内には10の包括支援センターがあり、それぞれの包括支援センターの意見を聞いたわけではないため、包括よろこびで私が活動して感じた話だが、例えば包括支援センターの役割として、関係者間のネットワークを構築する中で、ネットワークを輪のような形に繋いでいくこととなるが、包括支援センターだけでは力量的にできない部分があるとすごく実感している。そのような部分を、包括支援センターのバックアップとして、第1層協議体の皆様に動いていただきたいと思うことはある。

第1層と第2層の生活支援コーディネーター連絡会が定期開催となり、連絡会から議題をダイレクトに上げることができるようになればいいのではないかと思う。

池田会長

丸藤委員今の件についていかがか。

丸藤委員

今の林委員の話と同意見である。包括支援センターの中でできない部分もあると思うので、その部分を直球で出してもらえればと思う。

池田会長

連絡会はまだないのか。

丸藤委員

この前初めて第1回目を実施し、顔合わせと各コーディネーターの思いの共有を行った。今後も回数を重ねていくことができれば、協議してもらいたいことがどんどん出てくると思う。

池田会長

連絡会を定期的で開催していけば、おのずと話が進んでいくと思う。第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーターの関わりを深めてほしい。酒井副会長いかがか。

酒井副会長

第1層・第2層生活支援コーディネーターの連携について、関わりがないので正直なところ分からない。

池田会長

包括支援センターしか関わっていないので、実際に連絡会に参加して場を見ることも必要ではないか。

丸藤委員

地域課題を解決する地域ケア会議の案内を、第1層協議体のメンバーにも配布するようにし、全部出るのは物理的に不可能なので、出られるときに出てもらおうと雰囲気もつかめるし、顔も見えてくるようになるのではないかと思う。

池田会長

そこで出た課題を第1層協議体のメンバーが吸い上げることもできるようになる。第1層協議体のメンバーも第2層協議体に参加するようにしなければならない。そのよう

な組織づくりをしていけば、取組が活性化していくと思う。

最後その他について何かあるか。

相澤主査

訪問型サービスA従事者養成研修について、今年度国が生活援助のみの資格を新設したが、道から詳細な情報の提示がないことから、整理しきれておらず、まだ実施していない状況である。

道から情報を得て、事業を組み直し次第、皆様にお伝えする。

また、アンケート調査について、本日お示しできれば良かったが、間に合わなかった。でき次第皆様にお示ししたい。

池田会長

その他何かあるか。

二木主査

皆様に相談であるが、協議体の仕組みは複雑であり、どの方向に進んでいくか見えにくい部分がある。平成27年から全速力で実施してきたが、これから今の委員で3年間やっていくなかで、次回は振り返りと今後の方向性を考えるための勉強会という形で協議体を実施したいと考えるがいかがか。

(各委員から特に異議無し)

それでは勉強会という形で次回は開催させていただく。

池田会長

その他何かあるか。

(特に無し)

では、これで議事を終了したい。進行を市にお返しする。

古口主任技師

次回は11月下旬から12月上旬に開催予定である。お配りしている次回スケジュール確認票へ都合の悪い日を記載し、市へ送付してほしい。

これをもって、函館市地域支え合い推進協議体の今年度第1回目の会議を終了する。